

# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。 スポーツ振興くじについてはこちらから [日本スポーツ振興センターHP] <a href="http://www.jpnsport.go.jp/">http://www.jpnsport.go.jp/</a>

スポーツくじ 🚥





スポーツ振興くじ助成事業



青少年×総合型クラブ×スポーツ少年団 「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part.1

企業から協賛金を募り、安定的な財源の確保に取り組むクラブ ▶▶ 特定非営利活動法人BSスポーツクラブにかほ(秋田県)

特別企画 PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブ

▶▶ NPO法人SCC(鹿児島県)

- 助成金情報 ▶▶▶ 詳細
- お知らせ▶▶▶ 詳細
- バックナンバー▶▶▶ 詳細



日本スポーツ協会





# 摩談会 青少年×総合型クラブ×スポーツ少年団



# 「青少年と考える運動部活動の地域移行」 Part 1



運動部活動の地域移行について、直近の中学校部活動経験者である高校生や大学生からの 意見を聞くことで、子どもたちが求めている望ましい部活動の在り方について改めて考えることを 目的としてオンライン形式の座談会を実施しました。

Part.1の今回は、青少年の2人から「運動部活動の地域移行」に関する印象や期待を聞くととも に、総合型クラブとスポーツ少年団の取り組み事例を紹介しています。

※Part.2は次号(11月号)掲載予定です。

#### ●座談会メンバー●



コーディネーター 小出 利一氏 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 広報部会 部会長 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 常任幹事 NPO法人新町スポーツクラブ(群馬県) 理事長



渡辺 靖代氏 スポーツリンク白川(岐阜県) クラブマネジャー 1999年から現在にかけて、運動部活動に関わる様々な人・団体と連携 し、部活動の地域移行に取り組んでいる。



松原 三郎氏 大沢ベースボールクラブスポーツ少年団(宮城県) 指導者 スポーツ少年団で20年間にわたり指導を行う。 現在は地元中学校の野球部と連携している。



真利谷 公佑氏 森河内第1スポーツ少年団所属 大阪府リーダー会 会長(シニア・リーダー※) 大学3回生 部活動:テニス部



靏羽 優芽氏 森河内第1スポーツ少年団所属 大阪府リーダー会 副会長(シニア・リーダー※) 高校2年生 部活動:剣道部

※リーダーとは、日本スポーツ少年団が育成している、各単位スポーツ少年団の活動における団員のまとめ役や、指導者と協 カしてチームを育てていく役割を担うスポーツ少年団員

https://www.japan-sports.or.jp/club/tabid275.html



## ●目次●

- 1) 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要について
- 2) 青少年にとっての「運動部活動の地域移行」に対する印象や期待
  - ●部活動で楽しかったこと
  - ●指導者へ望むこと、外部指導者への希望
  - ●今後、地域スポーツへ望むこと
- 3)総合型クラブの取り組み
  - ●スポーツリンク白川での取り組み
  - ●部活動連携のきっかけ、総合型クラブの設立
  - ●学校、部活、保護者、指導者、総合型クラブの連携(部活動育成会)
  - ●チームの活動目標を共有! ドリームシートの作成
  - ●連携に欠かせない行政側からの協力
  - ●生徒が選択できる自由な部活動の形
- 4)スポーツ少年団の取り組み
  - ●大沢ベースボールクラブスポーツ少年団での取り組み
  - ●部活動連携のきっかけ、学校との連携
  - ●生徒たちのモチベーションに合わせた指導
  - ●生徒が掲げた目標に向けてのサポート
- 5) 部活動連携に関する話を聞いた青少年の感想

### 1) 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要について

※運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 (スポーツ庁HP)



- ●誰もが参加しやすい運動、文化部活動
- ●複数の活動を経験できる活動日数や時間
- ●活動時間の適正化
- ●指導体制の見直し
- ●地域のスポーツ団体等との連携・協働

小出 (「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」の概要資料を基に解説した後)

主役となる青少年から意見を聞く機会がなく、提言がまとめられたことに、私としては不満を感じていました。今回の座談会では、大人だけでなく青少年の方にも参加していただき、子どもたちが求めている望ましい運動部活動の在り方について考えるきっかけとなればと考えています。

また、提言では、地域移行した受け皿団体の「評価基準」がなく、「誰もが参加しやすい活動になっているか」「複数の活動ができる環境があるのか」「競技性に偏っていないか」などの確認が必要だと思っています。そのようなことも考えながら、皆さんと意見交換ができればと考えています。

#### 2) 青少年にとっての「運動部活動の地域移行」に対する印象や期待

#### 部活動で楽しかったこと

小出 最初に、真利谷さんと靏羽さんがスポーツ少年団で活動されてきた中で、楽しかったこと や、印象に残った出来事について教えてください。

真利谷 私の所属団は野外活動を中心に活動しており、例えば、登山とか、地域の小学校を利用してキャンプファイヤーで一泊したりとか、普段あまり経験できない活動なので楽しい想い出が強いです。他には、社会見学みたいな形で他の施設に行くこともあります。1ヶ月に1回しか行事はありませんが、普段できないことを経験させてもらい、非日常的な部分の印象が強いと感じています。



**靏羽** 私は、スポーツ少年団の全国交流大会(茨城県)に参加した時に、いろんな都道府県の 方々との交流や障がい者スポーツを経験し、障がい者の方々がこうやってスポーツをされてい ることを知ることができたのが一番印象に残っています。

小出 お二人は学校部活動では何をやられていましたか。

真利谷 中高ともにテニス部に所属していました。

小出 楽しかったことを覚えていますか。

**真利谷** 大会での勝利も楽しい記憶の一つですが、日々友達と楽しんでワイワイ練習するのが 一番楽しかったです。

**靏羽** 剣道部に所属していました。違うクラスの人と交流できるのが部活動だと思います。いろ んなことを話したりして仲良くなれる機会が部活動でもあり、それが私としては楽しかったです。

#### 指導者へ望むこと、外部指導者への希望

小出 学校部活動で何かこうなってくれたら良かったということはありますか。



**真利谷氏** 「こう指導してくれたらと思うときに顧問が不在。ここが課題」

#### 露羽氏

「平日は指導者不在。きっちり教えてくれる監督がいてほしい」



**真利谷** 部活の顧問が会議で時々いなくなり、顧問がいないところで練習することがあり、少し 寂しい面もありました。こう指導してくれたらと思うときに顧問が不在でした。このあたりが課題と 感じました。

**電羽** 長年顧問をやってくれた先生が昨年退職され、代わりに若い先生が教えてくれることになりましたが、その先生が担任を持つことになり顧問ができなくなり、監督不在となりました。別の方に監督として来てもらいましたが、その監督も諸事情で来られなくなり、平日は部員が主体となっている状態で、指導者不在でメニューをこなしている状況です。きっちり教えてくれる監督がいてくれたらいいなと思います。

小出 部活と少年団を両立される中で、どちらもいい点があると思います。また、ここが違うから 両方おもしろいという点があれば教えてください。

**真利谷** 部活動は大会で勝つという目的があると思いますが、自分が所属しているところは、 そういう感じはなく、息抜きみたいな楽しめる場所でもあったので両立できて良かったと感じて います。

小出 先ほど鶴羽さんは、学校の先生がいないときに自分たちでメニューをこなしたと言っていましたが、部活動の指導者が学校の先生じゃなくなる可能性があります。この点はどう思いますか。

**靏羽** 剣道は5段から先生になれますが、部活の若い先生はまだ3段です。でも教えたいから 顧問として来てくれています。技量がちゃんとした人から教えてもらう方が自分の身にもなるの で、外部指導者になるのはいいなと思います。

#### 今後、地域スポーツへ望むこと

小出 これから先、部活動や地域のスポーツが若い人たちにとってどういう形になったら楽しい のか、あるいはこんな場所がほしいなというのがあったら教えてください。

**真利谷氏** 「子どもが楽しめる場所が一番」





**靏羽氏**「いろんな方々との交流が大切」

**真利谷** 大前提として子どもが楽しめる場所が一番なのかなと思います。雰囲気づくりとか、施設・設備とかも良ければ子どもたちもより練習に励むし、それが一つの楽しみであって、子どもが部活動に行きたいと思えるような環境が大事だと思います。

**電羽** コロナ禍もあって私の学校は他校との交流がありません。昔の先生は考えが古いと言ったら表現が悪いですが、自分の学校だけでいくというのが強かったので、他の学校との関わりがありません。やはり他校との交流があった方が人間の幅が広がるし、いろんな方々との交流が大切だと思います。

### 3)総合型クラブの取り組み

#### スポーツリンク白川での取り組み

小出 学生のお二人からいろんな意見を聞くことができました。続いて、岐阜県白川町にある総合型地域スポーツクラブのスポーツリンク白川で部活動との連携に取り組んでいる渡辺さんにお話しいただきます。

※スポーツリンク白川の活動については、メールマガジン9月号でも紹介しています。

https://www.japan-

sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R4/MM162\_shirakawa.pdf

#### 部活動連携のきっかけ、総合型クラブの設立

渡辺 現在、スポーツリンク白川は地元の白川中学校(白川中)と連携しています。その連携を 始めるまでの経緯についてお話しいたします。

1999年の白川中では、ソフトボール部の顧問の先生が競技未経験者だったことから、部活動で技術が向上しないという声が保護者から出たため、部活の後に延長で保護者によりソフトボールの指導をさせてもらえないか校長先生に掛け合ってお願いしたのが学校との最初のつながりでした。

白川中の場合は学校の授業が終わってから5時から7時までの2時間が空白の時間で、7時からは夜間体育施設といって一般の大人の方が中学のグラウンドと体育館を使用して大人の活動をしていました。この2時間の空白があるので、この2時間を使って活動させてもらえないかということで、保護者による部活が始まったのが1999年です。

ソフトボール部をきっかけに他部からも希望があり、部活の後に続けて活動するという動きが徐々に始まっていきました。

#### 責任の所在が曖昧だった延長部活を総合型クラブの活動に

2009年に総合型クラブとしてスポーツリンク白川がスタートし、延長部活中のケガや事故などの責任の所在に関する問題を解決するために、延長部活を総合型クラブの活動にしました。

### 学校、部活、保護者、指導者、総合型クラブの連携(部活動育成会) 顧問の先生と地域指導者の連携体制の構築

次に問題として出てきたのは、競技経験のない先生が顧問の場合は、地域の指導者がいれば技術が上がっていいのですが、新たに競技経験のある先生が来ると、地域の指導者の人と顧問の先生の言うことが違ったということが起きて、生徒の中で「どっちのことを聞けばいいか分からない」といったような声があったりします。また指導者によっては勝つことが全てみたいな感じで、レギュラー中心の練習になってしまい、レギュラー以外の人は球拾いとか裏方に回るという状況もありました。そういったところを整えていきましょうということで、中学校とクラブとで年に2回の部活動育成会を開くようになりました。

この部活動育成会ですが、顧問の先生、各部活動の保護者会長、クラブの事務局、そして地域の指導者が一堂に会します。スポーツクラブ活動規約というルールがあり、どういうふうに活動していこう、勝ちにこだわらず楽しく、そして体ができていく3年間なのでやり過ぎた活動にならないように、活動日数とか活動時間もルールとして決めましょうという規約になっています。



#### チームの活動目標を共有! ドリームシートの作成

次にドリームシートというものも作成しています。顧問の先生と地域の指導者の言うことが違うと一番困るのが生徒なので、このチームは何のために1年間頑張るのかという活動の目標をドリームシートに書いてもらっています。3年生が引退して2年生の新チームになるタイミングで部活動育成会を開き、顧問の先生と保護者会長、地域の指導者でドリームシートをつくってもらいます。生徒のレベル感や目的に合わせてその年その年で目標設定を変えるということをしています。その上で、クラブでの活動の際には地域の指導者はどういうことをするのか、そして顧問の先生はどういうことをするのかを明確にし、それに携わる指導者の名前だけでなく、資格を持っていれば資格名を書いてもらっています。そうすることによって誰が指導しているのかきっちり分かる仕組みになっています。

#### 連携に欠かせない行政側からの協力

次に白川町の教育委員会や学校をまとめている機関との連携について説明します。現在、岐阜県白川町の白川中の生徒は各学年1クラスで、どんどん生徒数が減っている状態です。そのため、白川町にある佐見中学校(佐見中)が白川中に合併され、4月から佐見中の生徒が毎日バスで40~50分かけて白川中まで通うことになりました。部活が終わってから佐見地区へ行く下校バスというのがありますが、佐見地区の生徒が部活の後にクラブの活動をやろうとすると、19時にクラブの活動が終わって佐見地区に帰り着くのが20時になります。当初、行政からは、帰りが遅いため佐見地区の生徒はクラブの活動への参加は無しにしようという意見がありました。しかし、佐見中だけで活動していたときよりも活動の種類や範囲が広がるというようなメリットもあり、保護者そして生徒から、佐見地区の生徒もクラブの活動がしたいという要望が出たのです。現在は部活が終わった後の佐見行きの下校バスと、クラブの活動が終わってからの「スポリンバス」、この二つのバスを行政の方から無料で出してもらっています。

先ほど学生のお二人から、部活動をやる上で施設とか設備も大切という声が出ました。スポーツリンク白川の活動は学校部活動に続いてやっているため、白川中の生徒は全員そのまま学校の体育館とかグラウンドを使用できるほか、地域のクラブ活動になっても備品はそのまま使っていいという許可ももらっています。ただし、その間の責任はクラブがもつことになっています。例えばバレーでアンテナを折ってしまったり、ボールがコンセントカバーに当たってコンセントが破損したり、生徒がケガをしたとかいう場合には、全てクラブの事務局に連絡がきて対応をしています。

#### 生徒が選択できる自由な部活動の形

今、部活動への参加は自由です。白川中の生徒の活動パターンは下記図1の6パターンになります。一つの種目を続けたいと思う生徒もいれば、多種目とかいろんなスポーツをやりたいという生徒もいるし、あまりスポーツとか好きじゃないからやらない生徒もいます。

1999年からずっと連携している中で現在の白川中の生徒の動きを見ると、7割の生徒が一つの種目を3年間続けてやっていきたいという思いが強いのかなと感じます。



図1 白川中学校での活動パターン

8



渡辺氏 「中学生を取り巻く環境が1年ずつ変わっていく中で、 切れ目がないように子どもたちを見続けています」

いつも思っていることがあります。子どもを取り巻く環境が毎年変わってしまうということです。 中学校の先生は3年間で変わっていってしまうので、4月になると顧問が変わったり、ずっと教え てくれた先生が異動になっていなくなるケースもあります。保護者についても、自分の子が夏の 大会で引退するとメンバーがガラッと変わってしまいます。一生懸命やる保護者と引き気味の 保護者の方もいたりして、その年々で保護者の熱意も違います。

地域の指導者とも、1年更新という形をとっており、1年ごとに区切りがあります。白川町の役場、教育委員会の職員の人も3年くらいで変わっていってしまうので、中学生を取り巻く環境が1年ずつ少しずつ変わっていく中で、スポーツリンク白川が切れ目がないように子どもたちを見続けていきたいと思います。

#### 4)スポーツ少年団の取り組み

小出 次はスポーツ少年団の取り組みをご紹介しますが、まず、ドイツにあるスポーツクラブについて説明いたします。種目は単一種目かもしれませんが、幼児から高齢者まで多世代に渡りスポーツによって地域のコミュニケーションを取るという組織がドイツのスポーツクラブです。それと同じようなスポーツクラブを日本にもつくろうという考えで、総合型地域スポーツクラブの育成が始まりました。また、ドイツのスポーツクラブの6歳から27歳がスポーツユーゲントの団員です。つまり一つの組織の中の青少年世代のことをユーゲントと呼んでいます。現在3歳から団員になれるスポーツ少年団はドイツスポーツユーゲントが見本です。スポーツ少年団とクラブは本来考え方が似ていて、ほぼ同じようなものと思っていいです。ただしスポーツ少年団の場合は、現時点ではある一定の青少年だけで活動しているケースが多いと感じています。

#### 大沢ベースボールクラブスポーツ少年団での取り組み

今の渡辺さんのお話しは総合型クラブにおける取り組みでした。次に松原さんからスポーツ 少年団での取り組みをお聞きします。それでは松原さん、よろしくお願いします。

#### 部活動連携のきっかけ、学校との連携 部活とスポ少で野球を指導 一番大事なのは学校との連携 部活動とスポ少の理念を共有

松原 私は40年前から野球に携わっております。元々、高校野球の監督をやらせてもらい、その流れの中で息子たちが中学校にいる時に父兄の人たちからスポーツ少年団を立ち上げてほしいと言われ、スポーツ少年団に携わるようになりました。

#### 月曜から金曜が部活、土日はスポーツ少年団

21年前の話ですが、部活動の先生に野球経験がないということで、少なからず経験のある私に指導の依頼がきたというのが部活動連携のきっかけです。その頃から既に土日に関してはスポ少、月曜から金曜まで部活という形の中で20年間やらせていただいています。学校側と子どもたち、100%リンクするわけではなく、先ほどの渡辺さんのお話しにあったように、部活は野球をやっているけど週末はスポ少に入らないという生徒も中にはおりました。こうした中で一番大事にしたのが学校との連携です。校長も顧問の先生も異動で変わるので、その都度校長室におじゃまして校長と顧問の先生を交えて、本来の部活動やスポ少の理念を共有させていただきました。また、保護者の方々との協力体制をつくり、地域と学校と保護者とみんなで子どもたちを育てるという理念の中でずっとやってきました。



小出 松原さん、高校野球の監督をやられて甲子園を目指していましたか。

松原 はい、そうです。おかげさまでコーチ時代に甲子園を踏ませていただきました。

小出 そういう経験がある中で、中学生を指導するにあたって気をつけたことはありますか。

松原 渡辺さんから、指導者によって指導方法が違うことで子どもたちが迷ってしまうという話がありました。私の指導ですが、技術的なことはあまり言いません。私から教えることはないです。子どもたちから聞いてくるケースが多いです。

小出 見守っている指導者という感覚でしょうか。

松原 子どもたちの想いを引き出すあおり役ですかね。子どもたちが上手になりたいとか、強くなりたいとか、野球を通じて成長したいとか、そういうふうに思ってもらう係ですね。

小出 中学生の部活動とスポーツ少年団の活動と連携して活動されておりますが、中学校に なってから野球を始める生徒はいらっしゃいますか。

松原 毎年入ってきます。

小出 そのような生徒と、小学生時代から野球をやっていた生徒たちと当然いろんな差があるでしょう。その差をどうやって徐々に埋めていくようにされてますでしょうか。

#### 生徒たちのモチベーションに合わせた指導

#### 松原氏

「モチベーションの幅がある中で、それぞれが満足する 時間と場所を」



松原 高校野球のようにモチベーションがみんな同じではないので、そのモチベーションの幅がある中で、みんなを満足させることができる、それが指導者の役目だと思います。有名私立高校に行って甲子園を目指し、大学に行ってプロを目指すという中学生もいました。小学校時代全く野球をやったことがなく中学から始める生徒もいます。その生徒も満足し、高みを目指している生徒も満足する時間と場所がなければいけないと思っています。生徒に分かりやすく、かみくだいて話すと、高みを目指している生徒にとっては不満な時間と場所になってしまうので、そのあたりを融合させています。もしくは一緒に手伝ってもらっている指導者がいるので、その方と役割分担して、それぞれが満足する時間と場所を考えるようにしています。

小出 今年の夏、中学3年生が競技から離れ中学1,2年生だけになると思います。今、部員は何人ですか。

松原 1、2年生で18人です。

小出 われわれの時代は、中学1,2年生の頃は球拾いというイメージがあり、スポーツができないという時代でした。ずっと補欠の生徒と、高みを目指している生徒との間のギャップはどう埋めていますか。

#### 生徒が掲げた目標に向けてのサポート



松原氏 「生徒たちが掲げた目標に向かってお手伝いするのが 大人の役目」

松原 レギュラーの生徒、レギュラーでない生徒、ゲームに出る出ないの前に目標と目的という話を生徒にしています。グラウンドに来る、スポーツをしに来る目的って何でしょうねという中で、生徒が「試合に勝ちたい」という目標を立てた場合、これはあくまで目標で生徒たちが掲げるものであり、私が掲げるものではありません。ですので、生徒たちが掲げた目標に向かってお手伝いするのが大人の役目だと思っています。野球をする、スポーツをする目的というところに時間をかけて、親も含めて話しています。「試合に出ることだけが素敵なことではない。試合に出なかったけれども今日あなたは素敵だったよ。何故ならここに至るまでのプロセスの中で、あなたがいたおかげで今日彼はヒットを打つことができた」というような話を大切にしています。

小出 松原さんみたいな指導者の下で野球ができて幸せですね。

松原 毎年、送別会をやりますが、生徒の一人に、とてもインパクトのあるお別れの言葉をいただきました。「世の中で松原さんほど怖い人間に出会ったことがない。だけども世の中で松原さん以上に優しい人とも出会ったことがない」と言われました。



すごく嬉しかったです。私にとって一番の宝物になりました。

小出 それ(松原さんの教え)が分かってくれているからモチベーションが違っていても一つの チームとして同じ方向に向かっていると思います。

松原 地元の高校野球部に卒業生8人が入り、残念ながら甲子園には行けませんでしたが、昨日8人全員が来てくれて、中学生と一緒に紅白戦をやりました。8人のうち3人が中学から野球を始めて高校の3年間も野球を続けました。一応、タクトを振る役目の人間が必要なので、私がその役目をおおせつかっているだけです。大人って何のためにいるのか、それが私の一番の基本となっております。

大人って子どもたちのためにいるんだと思います。われわれが子どもの頃、大人から教わって大きくなったので、上から教わったエキスを、今度は私たちが今の子どもたちにマッチした形で伝えていくとこによって、先代よりもわれわれの時代、そして、われわれよりも次の世代の人たちがスポーツを通じて豊かになっていくことが一番の目的だと常々思っています。

小出 中学の部活動とスポーツ少年団の活動ですが、時間や曜日の振り分けは決まっていますか。

松原 白川の渡辺さんのように一日の中で部活とスポーツ少年団の活動を分けるのではなく、 月曜から金曜までは部活で、土日はスポ少です。ただし、部活で組んだ週末の練習試合には 私も混ざっています。というのは仙台市の教育委員会から外部指導者として認可をいただいて いるので、部活にも参加できるし、週末は顧問の先生と一緒にベンチに入って生徒たちと試合 に臨んでいます。

### 5) 部活動連携に関する話を聞いた青少年の感想

小出 真利谷さんと鶴羽さんにお聞きします。渡辺さん、松原さんからのお話を聞いて、印象に残ったことを教えてください。

**電羽** 印象に残ったのは、渡辺さんがおっしゃっていた指導者によって話すことが違う点です。 私も経験しましたが、監督の方と若い指導者の言うことが全く違っていて、若い指導者の場合 は「技術的にこうやったら強くなる」と教えてもらえますが、監督は定年退職された方で「おれの 時代は大きい技しかやらないで勝てたから、お前らもそれでいけるぞ」としか言われませんでし た。「もっと難しい技を知りたいのに」という思いはあります。松原さんのお話では、自分が教え にいかずに、生徒自身が聞きにくるというのはいいなと思います。オレの意見が正しいと押し付 けられるよりは、自分の身にもなるし興味も湧くのでいいなと思いました。

**真利谷** 渡辺さんのお話であったように、部活動だけでなく、その後にスポーツリンクでは別のことをするのは、すごくいいなと思います。一つのスポーツをやっている生徒が多いのかもしれませんが、いろんなスポーツを経験することで、知識の幅が広がるだけでなく活動の中でいろんな交流ができると思います。松原さんのお話では、上の世代から自分の世代、自分の世代から下の世代へとつないでいくというのは、とてもいい話だと思いました。

自分のところも現在は人数が少なく、大阪府のスポーツ少年団に所属している子も少ないし、 リーダーも少ないという現状もあるので、自分たちが上から受け継いだことを、自分たちで教え て下の子たちに伝えることを改めて考えていかないといけないと感じました。



Part.2は、メールマガジン11月号 に掲載予定です。

子どもたちのスポーツ環境についてや第1弾、第2弾を通しての総括などを掲載する予定ですのでぜひご覧ください。 お楽しみに!



# 特集

# 企業から協賛金を募り、 安定的な財源の確保に取り組むクラブ



# 特定非営利活動法人 BSスポーツクラブにかほ



### <秋田県にかほ市>

日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。

そこで今回は、地元の企業や団体と連携し、安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。



# クラブ概要

#### 老若男女問わず計79教室を実施

平成22年3月に設立検討委員会で慎重に審議を重ねて設立。「スポーツを通し豊かなライフスタイルを構築し、地域コミュニティを活性化し、住みよいまちづくりに寄与」を設立理念に活動をしています。

現在の会員数はコロナ禍で減少していますが、小・中学生100名、中高年層137名(障がい者含む)の計237名で、幅広い世代の地域住民で構成されています。

主な活動内容は、老若男女を問わず誰でも楽しめるプログラム【健康・体力づくり教室】(景勝地ウォーキング・トレッキング・ノルディックウォーキング・ニュースポーツ他)、【ジュニアスポーツ教室】(キッズスポーツスクール・運動deあそび教室)、【文化、教養教室】(芸術鑑賞・料理・創作・スターウォッチング)のほか、競技スポーツ・サークル活動による多世代の交流イベントを含めて計79教室を実施しています。さらに、にかほ市主催の幼児・小学生対象の運動教室、一般向け運動教室(インターバル速歩・ヨガ教室)のスポーツ推進事業を受託して生涯スポーツ社会の環境整備に寄与しています。また、令和3年度より、にかほ市から体育館の業務委託管理を受託しています。

事務局は、理事長(常勤)、クラブマネジャー兼事務局長(パートタイマー)、サブマネジャー (パートタイマー)で企画運営を行っていますが、陣容の不足が課題となっています。



# **(2)**

# 企業からの協賛金確保に奔走

当クラブは会費、委託料、広告協賛金、事業収入(参加料)等が財源で、5割弱を協賛金に頼らなければならない状態でしたので、財源の確保に大変困難が伴いました。日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ(toto)助成事業を受けていた当時は、活動するための最小限の財源確保ができましたが、助成が終了した後の財源確保には大変苦労しました。平成24年に行政や地域住民から社会的信用を得るために法人格を取得して資金調達が有利になることを期待しましたが、toto助成終了後の数年間は市からの補助金が皆無でした。

そのような状況の中、広告協賛金の募集はクラブの役員全員態勢で行い、主に理事の知人 や紹介などで企業に趣意書を持参し、設立理念、活動の趣旨・運営内容等を説明し理解を得ることで、協賛金をいただくことができました。その大きな要因となったのは担当役員の人脈です。趣意書持参のほか、協賛金募金の依頼書も作成しました。協賛金をいただいた企業には 後日改めて礼状を送付いたしました。

協賛金をいただいた企業等に関しましては、市内全戸に配布する会報のほかホームページ、クラブの情報誌にバナー広告を掲載し、協賛企業とクラブの相互の認知度アップにつなげました。その結果、当初は47団体から100万円程度(4個人寄付含む)の協力をいただくことができました。諸々の経済的悪条件が重なり、現在は30%程度減額しています。



年1回8月に協賛広告を掲載したクラブ会報を 全戸に配布しPRしている



#### 広告協賛のお願い

#### 趣意書

NPO法人「BSスポーツクラブにかほ」は、スポーツを通して明るく活力ある街づくりを目指し、平成22年3月に設立された会員制のスポーツクラブで、会員の活動以外にも公益事業にも力を注いでいます。その活動目標は、「いつでも、だれでも、いつまでも」をキャッチフレーズに、中高年の「健康・体力づくり」、少年期による「運動能力や競技力の向上」、幼年期における「スポーツへの興味づくり」さらには、郷土史探訪ウオーキングなどの風土に根ざした「文化活動」等を実施しています。

各自がそれぞれの年間計画に基づき活動し、地域住民が「健康で豊かなライフスタイル」を築き、健康寿命の延伸実現に寄与しようと努めています。また、地域に誇りを持った市民育成にも努め、他地域との交流を積極的に推進しております。

クラブの運営財源は、市からの助成金と自助努力による事業収入が主な財源です。 つきましては、当クラブが使命とするスポーツによる地域住民の「健康・体力づくり」、「仲間づくり」さらには「青少年の健全育成」にも力を注ぎ「地域の活性化」に努めているところをご賢察いただき、下記により広告協賛のご協力を心よりお願い申し上げます。

記

- 1. 協賛募金目標額 80万円
- 2. 年間運営予算 万円

#### 【収入内訳】

自主財源(会費・事業費・自販機) 万円

事業収入(各種事業参加料・各種教室参加料) 万円

管理委託料 万円

市助成 万円

市受託事業収入 万円

広告協賛金 万円

#### 【支出内訳】

運営費[各種事業他] 万円

報償費[各種事業講師謝金他] 万円

人件費[職員給与他:事業部] 万円

人件費[職員給与他:管理部] 万円

需用費〔備品・消耗品・リース代他〕万円

事務費[事務用品、紙代、印刷費、通信費他] 万円

用具費[各種目用具代] 万円

旅費[会議(全国・県)・研修会(東北)・交流会 万円

3. 協賛広告の掲載「BSスポーツクラブにかほ」会報に宣伝広告として掲載の他、当クラブ公式HPバナー広告として配信します。

# (3)

# 認知度が向上→協力企業が増、個人からの寄付金も

協賛金をいただくことによって得られる一番の効果は、財源が潤うことです。協力してくださった方々がクラブの活動・運営に理解を示すようになり、それが口コミによりクラブの認知度向上につながるとともに、広告掲載を知った関係企業の方からも協力を申し出ていただけるようになりました。またクラブの運営を支援したいという個人からも寄付金をいただくことができました。

#### 協賛企業と協同で「血管年齢測定」を年3回開催

3年前から協力していただいている企業と一緒に、クラブの活動前に「血管年齢測定」を年3回 開催したことで参加者が増えました。測定結果に一喜一憂しながらも、健康に対する意識の向 上やスポーツによる健康志向のきっかけになり、クラブの認知度向上につながりました。今年 度も協賛企業と協同して「骨密度測定」を実施する予定です。

協賛企業の獲得という面では、これまで協力してくださった経営者の方々の世代交代により継続して協力が得られなくなり協賛金が減少していることが課題となっています。また、募金体制が特定の方に集中している点の見直しが必要になります。今後も継続的に協力していただけるために、役員全員態勢で新たな人脈のネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えています。



協賛金をいただいている企業と一緒にスポーツ教室に 合わせて「血管年齢測定」を年3回実施している



測定後の活動(ペタンク)

# 4 財源確保に向け行政とも連携 行政側と年数回協議

行政に何度も足を運び、クラブの財源確保のために努力した結果、運営補助金、運動教室運 営業務委託(4教室)につながり、行政との連携を密にしています。具体的な行政へのアクショ ンですが、年数回行政(主管課)と協議を行い、最優先政策(健康寿命延伸)とリンクできる事 業を実施していることをPRするなど、行政側の理解に向け努力いたしました。さらに市長との面 談をセッティングしていただき、当クラブを行政のパートナーとして認めてもらいました。

昨年度より、にかほ市の体育館の業務委託管理を受託し、その管理業務もクラブで行うこと になったことにより、財政的には少々潤ってきています。

体育館の管理に加え、活動拠点(クラブハウス)としての活用が可能となりましたので、今後 は、より広範囲にわたる活動につなげていきたいと考えています。

#### スポーツを通じた「青少年の健康育成」「地域活性化」に努力

現在、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度を申請中です。同制度で得られるメリットに 期待して、スポーツを诵して健康・体力づくり、仲間づくり、生きがいづくり、さらには青少年の健 康育成など、スポーツ環境の整備に努め、スポーツの力による地域の活性化に寄与できる活 動に結びつけていきたいと考えています。

(BSスポーツクラブにかほ クラブマネジャー 矢田 美保子)

### クラブ プロフィール

設立年月日 平成22年3月27日(平成24年6月1日 法人登記)

秋田県にかほ市 所在地

会員数237名(令和4年8月現在)、予算規模960万円(令和4年度)

「B(Bright:輝く)S(Smile:笑顔)スポーツクラブにかほ」として設立し、スポーツを 通して豊かなライフスタイルを築こうと活動しています。幼児から高齢者まで幅広い 世代の地域住民で構成されています。健康・体力づくり、仲間づくり、生きがいづくり

など、地域の活性化を目指した活動しています。

誰でも参加できる「健康・体力づくり教室」、「ニュースポーツ教室」、さらに、ジュニア 対象のスポーツ教室など幅広いスポーツ活動を実施し、地域の活性化に努めてい ます。また、多世代交流事業は地域コミュニティづくりに寄与し、スポーツで、明るく 元気な街づくりのイベントを実施するなどして、広く住民の参加が得られています。

〒018-0104 秋田県にかほ市象潟町字狐森7番地(象潟体育館内) 連絡先

> TEL 0184-44-8663 FAX 0184-44-8665

URL http://www.bssc-nikaho.net/

E-Mail bssc-n@bssc-nikaho.net



# 特別企画

### PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブ



自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目 標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取り組み計画を策定した上で、 計画に基づく活動を着実に実行し、その内容および効果を定期的に検証することによって常に改 善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで今回は、PDCAサイクルにより運営の改善等を図るクラブの取り組みを紹介します。

★「PDCA」とは、P(Plan「計画」)・D(Do「実行」)・C(Check「検証」)・A(Action「改善」)の頭文字から 名付けられた効率的な業務遂行のサイクルを表した考え方のこと。

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」(平成30年4月1日:公益財団法人日本スポーツ協会)

# 1 クラブ概要

平成12年7月に鹿児島市で設立。実業団陸上競技部の短距離選手だった太田敬介(筆者= 現理事長)が、所属運動部の廃部をきっかけに、様々な世代が集い、地域に根付き、自立した 体制を整えたスポーツクラブの必要性を感じ設立しました。スタート時は会員3名から始まった クラブです。

設立から22年を経て、現在の会員数は670名。陸上競技教室、幼児体操教室、ノルディック ウォーキング教室、ストレッチポール教室を開催し、幼児から高齢者まで幅広い世代が集うクラ ブとなりました。

#### 2大会連続オリンピック選手を輩出

リオデジャネイロ・オリンピック陸上女子5000mに上原美幸さん(第一生命)が、昨年開催され た東京オリンピック陸上女子4×100mリレーのアンカーに鶴田玲美さん(南九州ファミリーマー ト)が出場し、2大会連続でオリンピック選手を輩出しています。お二人とも当クラブの会員です。





# 「新年度経営計画書」をベースに毎年事業等を見直す

#### 理事長、ゼネラルマネジャー、事務局長が「事業報告」「事業計画」を発表し、意見交換

(1) 毎年度末に、理事長、ゼネラルマネジャー、事務局長3人が、それぞれ自身の業務の「事業報告」と次年度の「事業計画」を策定し発表する会を実施しています。この「事業報告」と「事業計画」ですが、それぞれの業務内容において、「このようなことに取り組みたい」という目標を立てます。そして、1年間この目標に沿って取り組んだ結果、「どうだったか」ということを報告します。ゼネラルマネジャーは主に教室やイベントを取り仕切っておりますので、業務の取り組み方について、事務局長は主にフロント業務を行っておりますので、経理や会員さんへの案内、イベント告知等の業務について発表します。単に発表するだけでなく、3人で意見交換もいたします。



業務の事業報告会の様子

#### 計画書は当初の26ページから38ページに拡充 年々内容が充実

- (2) その後、それらを元に新年度の取り組みテーマや重点取り組み事項等を示した「新年度経営計画書」(非公開)を理事長が策定し発表いたします。この計画書は平成25年度に理事長の太田が日本スポーツ協会公認クラブマネジャー養成講習会※を受講した際に作成した事業計画書がベースとなり、毎年、内容を見直してきたものです。作成当時は26ページだったものが、令和4年度版は38ページとなり、年を追うごとに内容を充実させています。
  - ※日本スポーツ協会公認クラブマネジャー養成講習会についてはこちらをご確認ください。

https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid221.html

#### 毎月の運営委員会の協議を経て、会員の声を運営に反映

(3) クラブ会員の皆さんの声を運営に反映させるために、ゼネラルマネジャーが、各教室を回りながら、毎月4~6名ほどの会員さんをランダムに選び、ヒアリング調査を実施します。ヒアリング内容は現在、どのような目標を持ちながらスポーツに取り組んでいるのか、クラブのプログラムのどこに魅力を感じているのか、クラブに対する要望は何か等についてです。この内容を理事長、ゼネラルマネジャー、事務局長、会員代表、クラブアドバイザーで構成する運営委員会で月に1度協議をしています。小学生から「練習最後のレクリエーションが楽しい」との声があれば、その内容について充実を図るなど、会員の声を大切にしながら運営しています。



運営委員会の様子

#### 入会時にヒアリング調査 丁寧な対話を通じて目標設定

(4) 入会時に、何を目的にクラブに入会をするのかヒアリング調査をし、それらを反映させたプログラムづくりを意識しています。それらを集計することでクラブ入会意識に対するマーケティングにもつながっています。また、中には入会の動機が明瞭ではない場合もあり、その際は、スタッフと丁寧に対話をしながら適切な目標設定を促しています。

#### 退会時にもアンケート調査

(5) 退会時には、アンケート調査を実施し、退会理由の傾向を調査しています。

# 3

# 丁寧な調査で浮き彫りとなる会員の志向

#### 多くの指導者は現・元アスリート 会員ニーズとのミスマッチを回避

指導スタッフはほぼ全員が元アスリートや現役のアスリートです。その経験から、スポーツをする人が立てる目標というのは、「県や全国大会等の競技会への出場」や、「そこでどのような結果や記録を残す」、また、「将来はオリンピック選手になって」というようなことをイメージしてしまうのですが、上記のように入会の動機や、現在目標にしていること等を丁寧に調査していくと、「運動会で一番になりたい」「リレーの選手に選ばれたい」「健康を維持したい」といった目標が多数挙がります。そこに気づかずに、経験からの思い込みだけで、会員の方々と接したり、トレーニングプログラムを立てたりすると、ミスマッチが起こり、結果としてクラブ運営はうまくいかないものになると考えます。総合型クラブの特徴の一つは「多志向」「多レベル」であり、クラブ会員の皆さんが持つ、それぞれの思いにどう寄り添えるか、これからも丁寧に調査を進めPDCAに反映させていきたいと思います。

#### 退会者は運営に満足も理由は別一調査結果 退会者減少に向け模索

また、退会される方へ実施しているアンケートも、実施する前はクラブに対して何か不満があるから退会されるのだと考えていました。ところが、調査結果では指導者やプログラムに対して、大変高い満足度が示されました(プログラムへの満足度=たいへん満足・満足合わせて94%、指導スタッフへの満足度=たいへん満足・満足合わせて93%)。つまり、満足はしているのだけれども、退会しないといけない別の理由があるということになります。満足度の高い指導プログラム・スタッフ体制を整えていくことは当然重要ですが、クラブをやめる、やめないはまた違う側面があり、退会者を減らすためにどうアプローチしていけばよいか、模索をしているところです。



# 4 ) 今後も積極的にPDCAに取り組む

#### 調査の継続で、見えなかった傾向が明確に

設立から22年を数え、設立の際に目指した「様々な世代が集い、地域に根付き、自立したスポーツクラブ」としての礎(いしずえ)は築けてきたのではないかと思います。ヒアリング・アンケート調査も継続して実施してきたことで、私たちには見えてこなかった傾向も明確になり、それらに対して、経営計画の中に示しながら、これからも「試すことに失敗なし」をモットーに掲げつつ、積極的にPDCAサイクルに取り組んでまいります。

#### 丁寧な対話を大切に、社会の変化に対応を

また、現在、スポーツは部活動の地域移行はじめ、大きな転換期にあります。その流れの中で、私たちが成すべきことは何か、求められることは何かを常に考え、私たちの思い込みを押し通すことなく、多くの関係者と丁寧に対話をしながら、変わるべきところは思い切って変わっていくことも必要だと考えます。

SCCのクラブミッションは「スポーツは、Like、Love、Life」。スポーツがちょっと好き(Like)、大好き(Love)、スポーツが持つ多様な可能性・価値観・関わり方一つひとつを大切に、そして一人ひとりがスポーツを通して豊かな生活を送る(Life)、そのようなスポーツ環境・文化をこれからも時間をかけて築いていきたいと思います。

(NPO法人SCC 理事長 太田 敬介)

### クラブプロフィール

設立年月日 平成12年7月1日(平成13年5月30日法人登記)

所在地 鹿児島市下伊敷3丁目22-30

**運 営** 会員数670名(令和4年8月現在)、予算規模2,700万円(令和3年度) 体制 理事長1名、ゼネラルマネジャー1名、事務局長1名、ヘッドコーチ4名、

コーチ20名

**教 室** 陸上競技教室、ランニング教室、ノルディックウォーキング教室、

ストレッチポール教室、幼児体操教室

**連絡先** 〒890-0005 鹿児島市下伊敷3丁目22-30

TEL 099-229-4222 FAX 099-229-4173

URL <a href="https://scc.10bai.com/">https://scc.10bai.com/</a>

E-Mail mail@10bai.com







# 助成金情報

## YMFSスポーツチャレンジ助成 2023年度(第17期生)

#### [実施団体] (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツとその周辺分野において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成をめざし、高い 志・目標を掲げチャレンジするアスリートや指導者、研究者の活動を支援・助成します。

[申込期間] 2022年9月1日(木)~10月31日(月)正午にて入力締切 申請フォームにて、「電子申請」を行います。詳しくは以下のページでご確認ください。 https://www.ymfs.jp/project/assist/





# お知らせ

#### 日本スポーツ協会情報

#### 令和4年度生涯スポーツ功労者が決定しました!

国による生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発 展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するもので す。今年度は生涯スポーツ功労者158名、生涯スポーツ優良団体102団体が決定され、日本スポー ツ協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として9名を文部科学省へ推薦し、「生涯ス ポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者については下記URLを参照ください。 https://www.mext.go.jp/sports/b menu/houdou/31/09/1420919 00002.htm

### ワールドマスターズゲームズ情報

#### 世界最大級の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ関西」新会期決定しました

マスターズスポーツファンの皆様。お待たせしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年5月の開催を見送り新たな開催時期を検討しておりましたが、この度新たな開催時期を「2027年5月」とすることに決定しましたのでお知らせします。

今後、本大会を楽しみにお待ちいただいた多くの人々の期待に応えるため、大会に向けた準備状況などの情報を発信しますので、ご期待ください。

#### 大会開催方針(予定)

- (1)大会名称 ワールドマスターズゲームズ2027関西
- (2)開催期間 2027年5月(17日間)
- (3)開催競技 公式競技 35競技59種目
- (4)開催場所 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県 京都市、大阪市、堺市、神戸市の13府県政令市

大会公式ホームページ https://wmg2021.jp/





#### 過去大会(2017年オークランド)の様子







